

1. プロジェクトDOHA*セミナーを開催

チーフアドバイザー 小原 博

6月26日、「患者の安全な搬送に関するDOHA*セミナー」を実施しました。

今回のセミナーは、各病院で患者搬送などに関係する総合計画部や救急部の医師・看護師を主な対象とし、日本人専門家、チョーライ病院から4名の医師/看護師、省病院から看護師1名の計6名がそれぞれ患者の安全な搬送に関する講義を行いました。

ベトナム南部各省の28病院とホーチミン市内13病院からの参加者にチョーライ病院内からの参加者を含めて約140名の参加となりました。

冒頭の挨拶の後、チョーライ病院DOHA部から「省病院からチョーライ病院への患者搬送の実情と保健省の規定」が紹介されました。

チョーライ病院救急部の医師及び看護師から救急搬送における医師の役割と看護師の役割について説明がありました。看護部が行った講義では、本プロジェクトが開発した「患者の状態に関するチェックリスト、搬送車内に準備すべき物品リスト」が紹介されました。今後、これらが省病院で使用され、チョーライ病院への患者搬送が一層安全に行われることを期待しています。



小原チーフアドバイザーによる講演

カイライ病院 Nguyen Thi My Linh氏より
省病院レベルにおける課題の共有

参加者との意見交換

ティエンザン省のカイライ総合病院から、省病院における救急搬送の実情と課題が報告されました。小原チーフアドバイザーが日本の救急システムを紹介したのち、活発な質疑応答を行いました。

プロジェクトでは、チョーライ病院による患者安全対策、院内感染対策、そして南部省病院への指導能力の強化を主な活動として取り組んでいます。省病院の医療スタッフをチョーライ病院に招いて行うDOHAセミナーは地方の病院を育成し、多くの人々に医療の恩恵を与えるために有益な活動と位置付けています。

* DOHA (Direction of Healthcare Activities) :上位病院が下位病院を指導・支援するしくみ。チョーライ病院が担当する対象病院は保健省により定められています。

独立行政法人 国際協力機構 (JICA)

チョーライ病院向け病院運営・管理能力向上支援プロジェクト

事務所: 10F, Block D, Cho Ray Hospital, 201B Nguyen Chi Thanh, District 5, Ho Chi Minh City, Viet Nam

Tel: 028 3620 5032 (直通) E-mail: chorayjica@gmail.com

ホームページ: <https://www.jica.go.jp/project/vietnam/044/>

2. 第3回プロジェクト合同調整委員会(JCC)開催

チーフアドバイザー 小原 博

4月16日、第3回プロジェクト合同調整委員会(JCC)が開催されました。

同委員会には、ベトナム側よりTran Minh Truong副院長をはじめとするチョーライ病院のプロジェクト関係者、日本側よりJICAベトナム事務所の岩間望次長をはじめとするJICA関係者および専門家チームが出席しました。

前回のJCC(2018年11月6日)では、円借款による日越友好病院の建設計画の進捗状況に合わせ、本プロジェクトの実施期間、活動内容の見直しを行うことで合意しました。その後、専門家チームとチョーライ病院カウンターパートとの間で見直し作業を進めてきました。今回のJCCでは見直しの最終案が報告され、チョーライ病院、JICA双方の承認を得ました。今後、新しいProject Design Matrix(PDM)、Plan of Operation(PO)等に基づいてプロジェクトを実施します。

そのほか、2019年3月までのプロジェクト活動の実績と成果の達成度について、チョーライ病院のそれぞれの担当メンバー及び日本人専門家より報告されました。Nguyen Van Khoi 病院長代理がProject Directorに就任することが承認されました。



JCCメンバーの集合写真



プロジェクトの進捗や今後の予定等を共有

3. 久恒順三短期専門家による次世代Sequencerの運用および解析Trainingの実施

久恒(ひさつね)順三短期専門家(国立感染症研究所薬剤耐性研究センター)が5月19日~31日に来訪し、プロジェクト成果『2-4多剤耐性菌に対する遺伝子検査体制の整備』の一環としてTrainingを実施しました。今回はチョーライ病院微生物科の医師および技師3名を対象とし、微生物科に設置している次世代遺伝子検査機器(Sequencer iSeq® illumina社)の技術指導と検査結果の解析に関する講義を行いました。チョーライ病院でのSequencerの運用は初めてであり、今後の運用により薬剤耐性菌の伝播に関する対策の推進が期待されます。

同専門家の派遣は今回が初めてであり、本年はあと1回派遣を行う予定です。

院内感染対策/看護管理 黒須 一見



微生物科での研修の様子

4. 橋本理生短期専門家からのメッセージ



肺がんTumor Board

短期専門家として、計7回にわたり仕事をさせていただきました。肺癌Tumor Boardや、呼吸サポートチーム(RST)について関わらせていただきました。Tumor Boardについては、今後さらに発展することで、多くの患者さんへの適切な診断・治療の提供のみならずCho Ray病院の肺癌診療のさらなる質向上につながることを願っています。またRSTは、成果の学会発表などを通してベトナム全体に影響を与えつつあり、Cho Ray病院発のモデルケースとして今後の活躍を期待しております。ベトナムの先生方におかれましては、別の事業や学会活動などいろいろな場面で今後もしばしばお会いするものと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。